

滋賀県文化振興基本方針(第3次)素案から答申案への主な変更点

| No | 変更点 (答申案) | 素案 | 答申案 | 変更理由 |
|----|--|--|--|--|
| 1 | P7L28 (3) 県の 動向 | ④「美の滋賀」づくりの取組 | ④ 滋賀の美の魅力の発信 | 「美の滋賀」の新展開(骨子案)の内容を反映。 |
| 2 | P9L19 3 基本方 針(第2 次)の取 組状況と 課題 | ・平成30年度(2019年度)から開催している「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」は、県内の文化施設等が連携し多彩な関連事業を展開することで、広域的で発信力のある取組へと発展させることができました。このような取組を充実させるため、文化施設をはじめとした多様な主体が連携・協働できる環境を整えていく必要があります。 | ・文化による本県ブランド力の向上やその魅力の効果的な発信に向けては、「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」といった、広域的で発信力のある取組を充実させていく必要があります。 | 「施策の柱1」に対する課題について修文。 |
| 3 | P12L5 2 基本目 標 | 文化芸術は、私たちに感動や心の安らぎ、生きる喜びをもたらすとともに、 <u>人々が様々な表現に共感することで、多様な価値観を理解し、尊重し合う土壌を提供するものです。</u> | 文化芸術は、私たちに感動や心の安らぎ、生きる喜びをもたらすとともに、 <u>豊かな感性や想像力を育み、多様な価値観を理解、尊重し合う土壌を提供するなど、人の心を育む上で大変重要な役割を果たすものです。</u> | 文化芸術が人の心を育む上で大切だということを位置付けるべきとの意見を踏まえ、追記。 |
| 4 | P14L8 第4章 施 策の柱お よび重点 施策 | また、重点施策を横断するプロジェクトとして、 <u>本県の多様な美を活かした「美の滋賀」の新しい展開を進めます。</u> | また、重点施策を横断するプロジェクトとして、 <u>本県の多様な美の魅力を全体として発信し、「滋賀をみんなの美術館に」の実現に向けて取り組みます。</u> | 「美の滋賀」の新展開(骨子案)の内容を反映。 |
| 5 | P14L10 第4章 施 策の柱お よび重点 施策 | (追加) | そして、これらの取組を進めるにあたっては、文化芸術によって、人、地域および世代等のつながりが生まれるよう、施策展開の視点を「つながる」とします。 | 施策展開の視点「つながる」について追記。 |
| 6 | P15L4 施策の柱 1 | (追加) | 評価指標「③ 学校と連携した文化芸術プログラムの参加児童数」 | 子どもや学校と関連した評価指標を設けるべきとの意見を踏まえ、評価指標を新たに追加。 |
| 7 | P15L23 施策の柱 1 | (追加) | ・県内市町が、「地方文化芸術推進基本計画」の策定や文化芸術に親しむ機会の充実に向けた取組を積極的に実施できるよう、支援・連携を行います。 | 市町による取組が進むよう県が支援・連携を行うべきとの意見を踏まえ、取組を追記。 |
| 8 | P16L25 施策の柱 2 | 評価指標「⑥ 1年間に文化芸術の創作活動を行ったことのある県民の割合」 | 評価指標「⑤ 1年間に文化芸術の創作活動に携わったことのある県民の割合」 | 創作活動に加えて、創作活動を支える活動も含めるべきとの意見を踏まえ、評価指標を修正。 |
| 9 | P16L25 施策の柱 2 | 評価指標「④ 文化芸術をつなぐ人材の育成に資する研修の受講者数」 | 評価指標「⑥ 研修で得た知識や技術を今後の活動に活かせると回答した受講生の割合」 | 研修の成果が活かされているかを評価すべきとの意見を踏まえ、評価指標を修正。 |

| No | 変更点 (答申案) | 素案 | 答申案 | 変更理由 |
|----|--------------------------|--|--|--|
| 10 | P17L28 施策の柱 2 | ・まつりなどの伝統文化や地場産業等の伝統的な技術・技能を保存、継承する活動を支援します。 | ・まつりなどの伝統文化等の継承に向けて、民俗文化財保存団体への活動支援や、観光分野等との連携による魅力の活用・発信を行うことで、担い手や支援者の拡大を図ります。 ・伝統的な技術・技能の継承に向けて、新商品の開発支援や首都圏等でのPR等により、地域ブランドの強化や販路開拓を通じた地場産業等の活性化を図るとともに、技術者の養成や就業支援を通じて、技術・技能の継承者の育成、確保に取り組めます。 | 観光分野との連携など、取組をより具体的に記述すべきとの意見を踏まえ、修文。 |
| 11 | P18L4 施策の柱 3 | (追加) | 評価指標「⑩ 地域に魅力や誇りを感じる文化芸術資源があるとする県民の割合」 | 県民が地域の文化芸術資源を認識しているかを把握すべきとの意見を踏まえ、評価指標を新たに追加。 |
| 12 | P18L4 施策の柱 3 | 評価指標「⑨ 他分野における文化芸術の活用事例」 | 評価指標「⑪ 地域において文化芸術と他分野との連携した取組があるとする県民の割合」 | 定性的でなく、定量的な評価を行うため、評価指標を修正。 |
| 13 | P19L6 施策の柱 3 | (追加) | ・アール・ブリュット作品等を通じた海外との交流や「2025年日本国際博覧会」に向けた取組などにより、文化芸術による国際交流の促進を図ります。 | 文化芸術による国際交流の取組にも触れてはどうかとの意見を踏まえ、取組を追記。 |
| 14 | P19L16 施策横断 プロジェクト | 「美の滋賀」づくりの取組 | 滋賀の美の魅力発信 | 「美の滋賀」の新展開(骨子案)の内容を反映。 |
| 15 | P21L1 推進体制 | 1 多様な主体との連携・協働 (1) 民間団体など(文化団体、企業、大学など) (2) 文化施設 (3) 市町 (4) 国、他の地方公共団体など | 1 多様な主体とのつながりによる連携・協働の推進 (1) 文化団体 (2) 民間団体(企業、大学等) (3) 文化施設等 (4) 市町 (5) 国、他の地方公共団体等 | 各主体の役割、県と各主体との連携・協働についての記述を充実。 |